

中国におけるボランティア活動「支持型組織」による支援モデルの構築

ーインタビュー調査よりー

○同志社大学大学院博士後期課程 氏名 遅 力榕 (9187)

キーワード：ボランティア活動、支持型組織、中国

1. 研究目的

中国におけるボランティア活動は社区ボランティア活動と青年ボランティア活動という発展の歴史がある(李 2002)。近年では、青年を主として広域的な参加が見られ、また社区にとどまらず社会に根ざした活動が展開されてきた(中国志願服務連合会 2017)。発表者は、中国におけるボランティア活動をより積極的に、開発的に、持続的に展開させるため、どのような支援が必要なのか、支援を行っている組織はどのような組織なのかを明確にする。そのような組織を中国では「支持型組織」という。具体的には、次の三つの研究課題を設定している。①ボランティア活動への支援とは、誰に対し、何を提供するのかという要素を明らかにすること、②支援とは、どのようにするのか、その方法および機能、さらにその機能を十分に果たすための条件を明らかにすること、③①と②を踏まえた中国における支援モデルはどのようなものなのかを明らかにすること、である。

近年、中国政府は志願服務活動(ボランティア・サービス活動)への注目が高まる中で、2016年に『志願服務組織を支持・発展するための意見』、2017年に『志願服務条例』を打ち出した。これはボランティア活動の活発な展開やボランティア活動組織の強化を望む、中国政府による強い意思表示であると捉えられる。中国は、一括管理、中央集権的行政システムであるため、自発性が問われるボランティア活動の展開に縁遠いと一般的に思われている。しかし、中国においても経済格差問題、高齢化問題など複雑な社会問題が噴出している。このような社会ニーズが多様化している中国に対し、社会サービスの提供、社会資源の調節、公平・正義の社会形成、国民の生活の質の向上に関して、ボランティア活動の展開は大変意義があると考えられる。

ところが、ボランティア活動組織の機能が不十分であり、専門性の欠如が指摘されているにもかかわらず、中国には「支持型組織」と呼ばれている組織があるが、その数はわずかである(中国志願服務連合会 2017)。この「支持型組織」は日本の中間支援組織と類似する役割を果たしている。第三セクターの持続的な発展を促進できる「支持型組織」におけるさらなる機能の明確化と発揮が求められている(徐 2010)。とりわけ、中国の行政システムにより、行政と活動組織間の関係の調整に向け、「支持型組織」の機能発揮はきわめて重要である。したがって、本研究では、中国におけるボランティア活動が持続的に展開されるように、「支持型組織」のあり方を明らかにしていく。

2. 研究の視点および方法

本研究は、調査研究である。2018年3月に中国においてボランティア活動が活発に行われてきた地域である10か所(北京市、上海市、広州市内)のボランティア活動「支持

型組織」のリーダー層に対し、それぞれ1時間から1時間半のインタビュー調査を行った。調査対象者の承諾を得たうえで録音を行った。録音した音声データの逐語録を作成し、佐藤（2008）の質的データの分析法を参考しつつデータをカテゴリー化し、分析を行った。

3. 倫理的配慮

本研究では、調査協力者に対して事前に調査に関する説明書、インタビューガイドを提示し、同意を得たうえでインタビューを実施した。また、本研究における調査は、同志社大学研究倫理審査会の承認を得たうえで実施した（承認番号：170421）。

4. 研究結果

(1)「支持型組織」は、中小規模のボランティア活動組織に資金、資源、能力、技術、情報などの支援を行い、ボランティア活動組織の機能強化と第三セクターの持続的な成長というエコシステムの構築を目指している。

(2)「支持型組織」が発揮している機能を四つにまとめた。第一には、＜組織の基盤整備＞である。この機能を達成するため、「組織の位置づけ・価値・目標の明確化」を元に、「創設者のリーダーシップ」、「中核的な人材の育成」と「成果公表」が挙げられた。第二には、＜ネットワーク・協働＞である。「共通な目標」を元に、交流会・勉強会・研究会などの「場づくり」を通して、学者、企業、行政という「多様な主体を巻き込む」ことが挙げられた。第三には、＜統合・調整＞である。「社会状況の把握」と「ニーズの明確化」を元に資源を調整することが挙げられた。また、今までに積み重ねた経験と今後の変化を予測しつつ「大局を見据えた」調整をすることが明らかになった。第四には、＜開発・創出＞である。社会イノベーションやビジネス手法などの革新的な手法で新たな資源を開発し、中国の第三セクターを創造的に発展させていることが理解できた。

5. 考察

本研究を通して、中国現地のボランティア活動「支持型組織」が予想よりも活発に機能している状況を確認でき、「支持型組織」が発揮している機能とその機能を果たさせる条件が明確になった。同時に課題が二点、明らかになった。一つは、行政への依存体質からの脱却である。「支持型組織」が活発になることは、中国政府による強い支援の姿勢と切り離せない。強い政府は必ずしも活動の展開に弊害をもたらすわけではなく、持続的、効果的に活動を展開させる環境を整えることができると指摘された。しかし、いかに行政からの委託事業を行いつつ、自主性・先駆性をもつ事業を展開できるのかを検討する必要がある。もう一つは、「支持型組織」の評価尺度が十分ではない。中国の現状に基づき、欧米の評価尺度の参考にしつつ導入することが重要だと考えている。今後は、この二つの課題を検討しつつ、日本の実践から中間支援組織の機能をまとめ上げ、日中両国の中間支援組織の異同を明らかにし、それぞれの状況に適合した支援モデルを提示していきたい。

【参考文献】・李(2002)『ボランティア活動の成立と展開』ミネルヴァ書房・中国志願服務連合会編著(2017)『中国志願服務發展報告 2017』社会科学文献出版・徐宇珊(2010)「社会組織構造革新：支持型機構の成長」『社団管理研究』(8)・佐藤(2008)『質的データ分析法：原理・方法・実践』新曜社